

## 日本ビタミン学会 第70回大会

大阪医科大学 小児科学教室 名誉教授

玉井 浩

平成30年11月4日(日)に日本ビタミン学会創立70周年記念シンポジウムを大阪医科大学看護学部講堂において開催した。これは、本来同年6月に開催予定だった日本ビタミン学会70回大会が大阪北部地震により中止となったため、代わりに開催されたものである。1日でのシンポジウム開催であったため一般演題はなく、午前中は学会賞、奨励賞、企画・技術・活動賞の授賞式と受賞講演を行い、午後は6月の大会で予定していたシンポジウム2つを行った。1つはビタミン・機能性表示食品の実態と利用法に関するもの、もう1つは臨床におけるビタミン・バイオフィクターの有用性に関するものである。

ビタミン研究は、以前は医学部中心に行われていたが、その後栄養学部、薬学部、農学部の研究者が中心となり、さらに臨床上の重要

性についても医師の認識は低下してきていたため、70回大会を本学で主催する意義は、医師をはじめとする臨床家の興味を引きつける内容にすることであった。特別講演は、ヨーロッパ、中国でのビタミン・サプリメントの位置づけ、ビタミンA誘導体による肝がん治療、ビタミンと腸内細菌との共存繁栄の話題など興味あるものであったが、残念ながら時間の都合で記念シンポジウムでは講演をカットせざるを得なかった。日進月歩の領域であり、近い将来さらに進歩したものを聴けるものと思われる。

一度は開催を諦めた学会であったが、創立70周年記念シンポジウムとして開催できたことは会員のご協力と大阪医科大学医師会のご理解の賜物と感謝しているところであります。

